

# 令和7度 自己評価書

学校名	和歌山市立四箇郷小学校
校長氏名	成瀬 秀平
作成日	令和8年1月23日

## 1 教育目標

心身ともにたくましく、豊かな人間性を身につけ、自ら学ぶ子供を育てる

## 2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	豊かな心	確かな学力	健やかな体と安全の確保
指標	学校評価アンケート項目(1)「学校は、学校の教育活動や子供の様子を保護者にわかりやすく伝えている」において、『思う方』の回答が75%を超える。	・学校評価アンケート項目(6)学校は、子どもに生命を大切にしている心や、社会のルールを守態度を教育している。の項目で70%以上を超える。 ・新聞を複数、校長室前におき、子供がすぐ手に取れる環境を整える。	県学習到達度調査の結果が県の平均を上回る。	学校評価アンケート項目(3)「学校は、子供の安全確保・健康管理のための取組を十分行っている」において『思う方』の回答が85%を超える。
重点目標【P】	◎学校だより・ホームページの発行・更新を通して、学校の情報を発信していく。 ○地域の方々との交流を計画的・積極的に進める。	◎図書館教育の推進を継続する。 ○道徳教育を計画的に進める。 ○豊かな体験活動の充実を図る。	◎子供たちの話し合い活動を重視した授業改善に努める。 ○基礎学力の定着を目指す。 ○算数の習熟度別少人数学習を行う。	◎児童の安全確保のために、感染症及び熱中症への対策を十分に講じつつ、これまでの取組を計画的に行う。 ○定期的な避難訓練に加え、集中豪雨時の危険箇所を把握できるようにする。 ○体力の向上を目指す。
取組の状況【D】	◎校長の思いや願い、学校の方針や考えを学校だよりやホームページ、地域の新聞に載せた。 ○学校開放月間及び日曜参観を行った。 ○運動会や授業参観で保護者のボランティア活動を実施した。 ○家庭科でミシンの指導補助として地域の方々を招待した。	◎保護者のボランティア活動を継続し、蔵書の整理を進めた。 ○道徳学習を計画的に進め、授業の質を高めようとした。 ○春・秋の遠足や修学旅行の他に森林学習など、体験活動を行った。	◎5年目となる国語科の研究発表を行った。一人一授業の研究授業を行った。 ○基礎学タイムで行う学習内容を、一人ひとりの興味・関心に合わせ、ICTを活用しすめた。  ○6年生算数の習熟度別少人数学習を継続した。	◎夏季期間のリュック登校を可能とした。ミストシャワーを積極的に活用した。 ○暑さ指数計を使い、児童の外遊びを制限した。 ○水飲み場の確保及び水の販売(1本50円)を行った。 ○年に3回の避難訓練を実施した。月に1回の校内安全点検を実施した。 ○「みんな遊び」をクラス単位で実施した。
取組の成果と課題(評価結果【C】)	・保護者アンケートの結果、分かりやすく伝えているの「思う方」が78%であった。昨年度と同じ数値であったが、来年度は、80%以上を目指す。 ・ホームページ作成担当が意欲的に更新を行った。	・新しい本を全て図書館に導入できた。  ・保護者アンケートの結果、66.4%であった。来年度は、70%以上を目指す。  ・熊等の出没が叫ばれる中、安全を最優先に加太合宿、森林教室を実施した。子どもへの貴重な体験活動となった。	・教科等別研修会では2つの学年で発表を行い、授業力を向上させることが出来た。中でも新任教員の成長が大きな成果と言える。 ・県の学力テストでは、5年生国語が昨年度-2.7%→-1.6%に、算数では-0.6%→-2.3%になった。県との差に大きな差が感じられなくなった。 ・算数の習熟度別少人数学習は児童にもすっかり定着し、単元ごとに自らがコース選択できるようになり、意欲も向上している。	・学校評価アンケート項目「学校は、子供の安全確保・健康管理のための取組を十分行っている」において『思う方』の回答が76.2%(+0.8%)で、ほんの少ししか理解が進まなかった。 ・旗を使って、熱中症警戒アラートの有無、外遊びの許可を示し、児童への周知が進んだ。 ・蛍光みどり→アラートあり、外遊びOK ・ピンク→アラートあり、外遊びNO
改善方法【A】	・参観や開放月間などを通じ、児童が活躍する場を積極的に公開していく。 ・ラインスクール連絡帳を使って、手紙や募集チラシなどを配布していく。	・読書活動を一層推進するため、委員会活動を中心に、学校全体の取組となるように新しいアイデアを取り入れていく。 ・県や市立図書館からの団体貸出を継続し、本に触れる機会を増やす。また、子供の目に触れる場所に複数の新聞をおく(校長室前)。 ・道徳の公開授業の機会を増やし、研修を深めていく。 ・体験学習を積極的に取り入れ、子どもたちが多様な人と交流する機会を増やす。	・教科等別研修会での授業提案を継続する。 ・中堅教員を中心とした教員の学び合う機会を定期化し、指導力の向上(=楽しい授業の提案)を目指す。 ・基礎学タイムで扱う教材のデジタル化(eライブラリ)をすすめる。	・熱中症対策として、これまでのリュックでの登校の許可、ミストシャワーや警戒アラートの積極活用に加え、子供の水筒へ水を補充する手立てを継続すること。 ・増水時の避難について、保護者や地域との協議をもち、共通理解を深めること。 ・通学路の安全確保について、保護者、地域と連携して進めていくこと。

## 3 その他の課題

- ・地域の方(主に見守り隊の方々)との連絡をライン連絡帳にて行う。また、通学路の安全確保のため、各種団体と協力し改善を進めていく。
- ・授業時間の確保(校務の効率化)を進めるため、保護者への手紙配布をできるだけライン連絡帳を活用すること。
- ・児童のICT活用を一層進めるため、計算や漢字のドリルをタブレット端末でもできるようにすること。